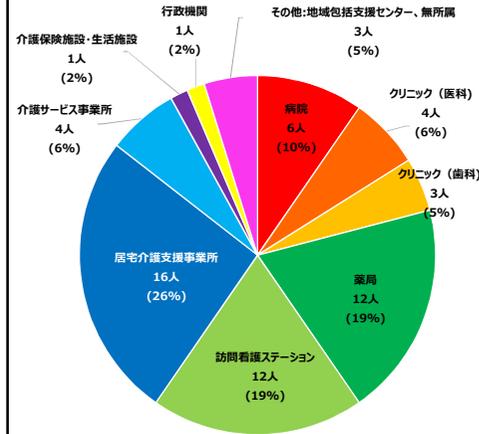


令和5年10月17日(火) 開催

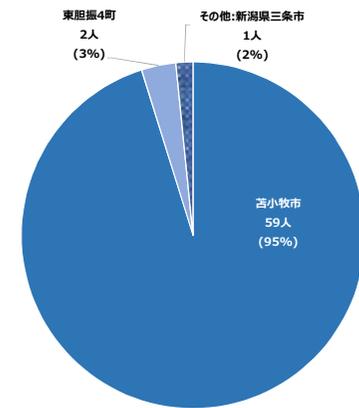
第7回 在宅あるある会 アンケート結果

参加者 90人
回答者 62人
回答率68.8%

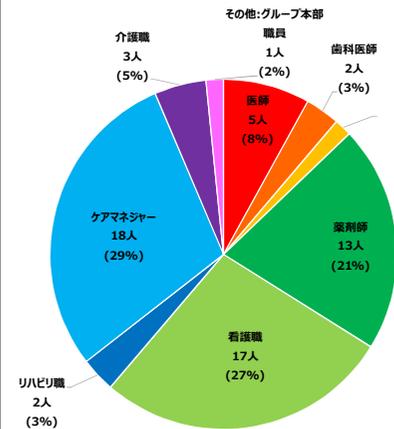
問1 該当する所属機関を1つだけお選び下さい。



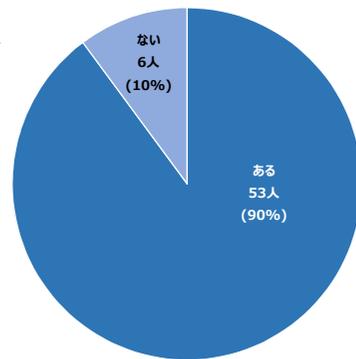
問2 所属機関の地域を教えてください。



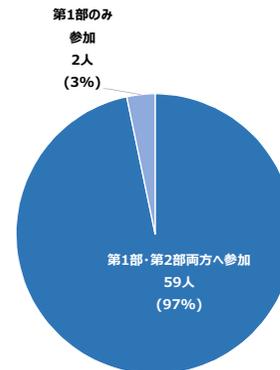
問3 該当する職種を1つだけお選び下さい。



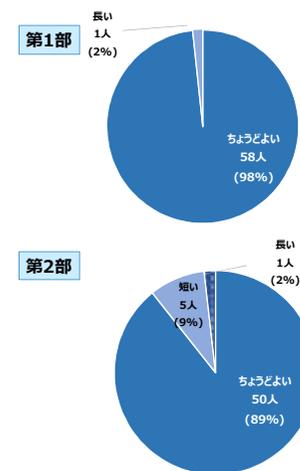
問4 この一年間で在宅医療にかかわったことがありますか。(依頼や退院時カンファレンスへの参加を含む。)



問5 参加状況をお知らせください。



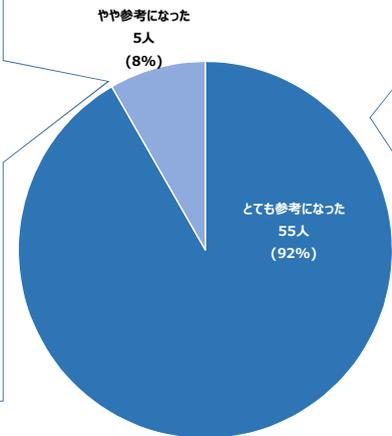
問6・問9 第1部・第2部の時間はいかがでしたでしょうか。



問7 第1部『訪問看護の役割を知って協働しましょう！～地域で利用者を支えるために～』については参考になりましたか。

問8 問7の回答を選択した理由について、具体的に教えてください。

- ・ 訪問看護の複数利用など新しい情報を知れた。
- ・ 各ステーションで料金が違うところ。退院後の訪問看護は手厚くすべきた、とのことがプランの参考になりましたが専門が違ふので、これまでは訪問看護師がどのような流れで介入しているのかわかっていなかった。
- ・ 内容についてはだいたい分かってはいたつもりでしたが、Nsの立場から、人員が都合つかないこともあることを頭に入れておきます。(ついつい緊急時の際にはすくすく対応を急ぎたい気持ちになるので、)
- ・ 嬉しいことがあったら報告したい気持ちになります。(利用者の言葉・様子、職員言葉等)これは一緒にケアしてきた同志だと自然な感じかもしれません。次のモチベーションになります。
- ・ 普段の在宅業務に活かせるようなことがあった。



- ・ 訪問看護を利用するまでの流れを詳しく聞けて参考になりました。また、実際の事例も興味深いものでとても参考になりました。
- ・ 制度のことなど、知識として不足していたことを学ぶことが出来ました。
- ・ クリニックの外来勤務ですが、「なぜこの方が訪問を利用していないのだろう」と感じる事も度々あります。久しぶりに訪問さんを身近に感じました。今後、クリニックの患者さんにも積極的に包括への相談をすすめていきたいと思えます。
- ・ 訪問さんのNGワードはこちらも依頼するときの説明に気を付けるべきことであると、どのように伝えたいかを参加後に事業所内で話題となり考えさせられました。また、訪問さんにごまごまの依頼をお願いできるのが詳しくわかりました。
- ・ どのステーションも同じ気持ちで向き合っているという認識が出来ました。
- ・ 多職種連携の大切さを改めて感じました。

問8 その他の回答

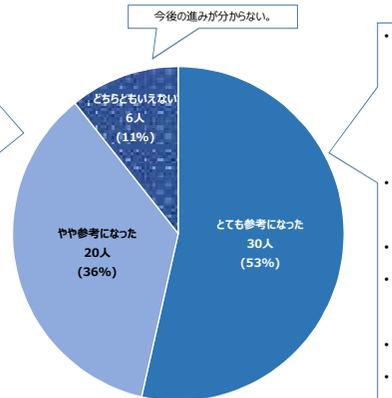
〈とても参考になった〉

- ・ 現在、当院で小児歯科訪問診療を開始してまだまもなくそれまでクリニック内での診察だけでは関わることがなかった訪問看護について、知らないことが多かったが具体的にどのような事を行っているのか吉小牧市全体の規模でみてどれくらいの訪問看護があるかなどを詳しく知ることが出来たから。
- ・ 指示書が有れば年齢制限無しに訪問看護が受けられる事を理解した。病名によって使う保険が異なることを理解した。
- ・ 色々な役割や規制があり、病名により介護保険や医療保険の選択など分からない事が多く、勉強になりました。
- ・ 訪問看護の役割を詳しく知る事ができました。指示書・特別指示書・ステーションを2ヶ所利用できる等、利用者様やご家族様との関わりで気を付けている点等、参考になりました。
- ・ 訪問看護の複数共同使用について、知ることが出来ました。担当医が指示書を書いて頂くか、やや不安があります。"診断によって異なる時間制限があることなどが知れてよかった。
- ・ 在宅で過ごす利用者さんが様子を見るための手立てを提示することの大切さ、安心につながる事が理解できました。先回りTEL作戦も参考にしたいと思いました。
- ・ 他の事業所の運営の仕方や悩みが分かりました。
- ・ 訪看を利用することを必要とする利用者様にとって必要だと思った時点で早めに利用する。何ができるか等、関わる利用者様について、気軽に相談できるとなりました。
- ・ それぞれの訪問看護ステーションで加算など違いがあることがわかった。もっと往診してくれる、指示書を書いてくれる病院が増えたいと思うので宣伝？した方がいいと思う。あるある会に参加してメンバーがある程度決まっているので、余り参加していない病院に連絡するとか。
- ・ 料金の仕組みなど知らないことがたくさんあった。
- ・ 先生の指示有きでの介入だけではなく、現場主導での介入の糸口が理解できた。
- ・ 訪問さんの困りごとと利用の仕方の参考になった。
- ・ 同じ職種として、普段思っていることを代弁してくれてとてもよかった。涙出ました。

問10 第2部『令和5年度 訪問看護ステーション調査結果からみえる吉小牧の在宅医療』は参考になりましたか。

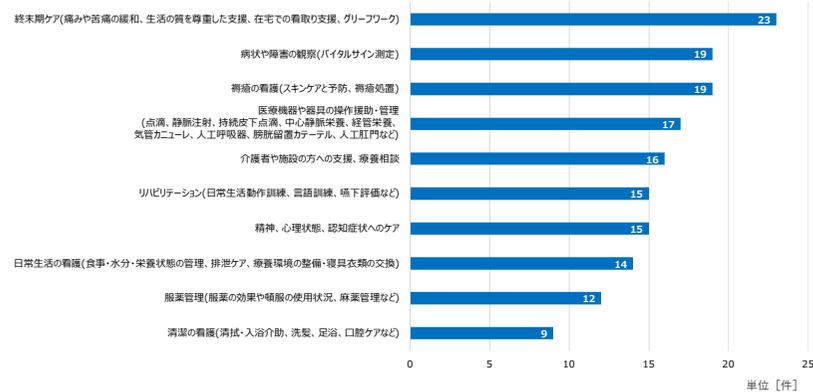
問11 問10の回答を選択した理由について、具体的に教えてください。

- ・ 自分が関わりのある事業者以外についてよく知らなかったので参考になった
- ・ 市内の利用者さんってこんなにいるんだって知る事ができました。数字でみるのがなかったで勉強になりました。
- ・ 訪問看護の活用事がわかりました。
- ・ 日々の在宅業務に活かせるようなことがあった
- ・ なかなか統計のデータを見ることがないので数字として知れてよかった。資料と発表の画面が違ったが、差し替えのデータ来てましたか？



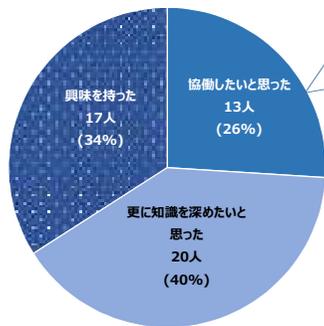
- ・ 訪問看護や在宅医療の存在を知らない方はたくさんいて、在宅で生活されご家族で介護を頑張っている方や一人で不安を抱えながら生活されている方が多いと改めて知ることができた。どのような方にも同じように安心して生活が送れるような仕組みができればと改めて感じることができた。
- ・ 吉小牧市の在宅の現状がよくわかり、薬剤師が介入できる余地が見て取れる資料だと思いました。今後増えるであろう在宅ニーズに応えられるようにしたいと思います。"
- ・ 訪問看護の事業所数やリハビリ職がいることと利用状況が理解できた。
- ・ "必要人数に対し介入出来人数が少なかりの乖離している事、現場を充足させるためには絶対数が足りていない事がよくわかった。"
- ・ 在宅医療の介入状況の把握ができました。まだまだ足りない状況と感じました。
- ・ 各種データを見て現状の数値を把握することが出来たから。

問12 今後、訪問看護ステーション・訪問看護師に関わってほしい(関わりたい)在宅業務を教えてください。 ※複数回答可



問13 訪問看護師以外の方にお伺いします。今回の在宅あるある会に参加し、在宅医療における訪問看護との協働についてどう思われましたか。

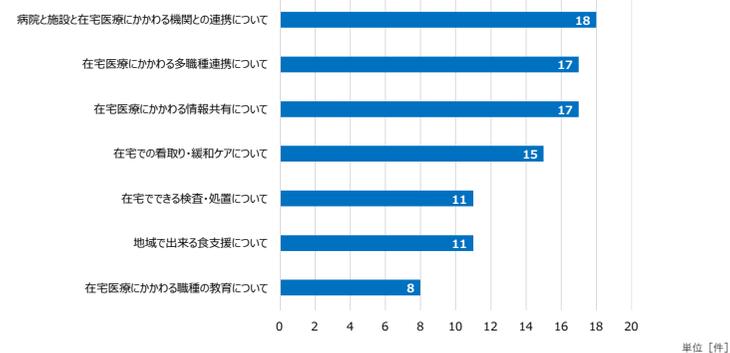
問14 問13で協働したいと思ったと回答した方にお伺いします。具体的にどのように協働していきたいと思われましたか。



- ・ 小児期は、体の成長と同じく子供たちの口腔内も変化が激しく在宅医療で暮らす子供も歯の生え変わりや口腔機能の獲得など様々な事を専門的知識をもって継続的に成長をサポートしていきたい大切な時期です。歯の生える前から歯科がかわりサポートできることは沢山ありますので、小児の利用者様がいらっしゃいましたら口腔ケアをどうするのがいいことを歯が生える前からご相談いただきたいと思います。
- ・ ケアプラン内容について主治医・訪問と連携を深めたい。
- ・ 病状に応じて訪問看護をケアプランに取り入れたい。
- ・ 薬剤師が在宅介入する際に薬剤の服用、用法等妥当性を判断しますが、その際に食事、嚥下状況や排便状況、バイタル、検査値など共有できるノートのようなものが患者宅に置いてあれば非常に助かります。現状ご本人、ご家族の方に確認していますが患者さんがしっかり服薬を続けられるよう、協力していければと思います。
- ・ 患者さんの状態により、受け入れできないタイミングもあり、訪問事業所さんの情報共有により、受け入れ下さる事業所さんの情報が得られると思えました。
- ・ 在宅介護の推進の為に共に関わってきたい。
- ・ 意見の違いがあっても、共に考え一緒に支えていけたらと思います。
- ・ 連絡を密にしておくようにしたいです。

問15 今後、開催してほしいテーマ研修はありますか。

※複数回答可



問16 今後、在宅あるある会で取り上げてほしい内容があればご記入ください。

- ・ 吾小牧市の訪問診療に関する事、救命医療について
- ・ グループホームと医療機関の連携
- ・ 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて
- ・ 医療的ケア児および重度障がい児の在宅医療
- ・ 終末期の患者さんが在宅に帰りたいと思表示してから、実際に帰る事が出来た時までの院内における流れやどれくらいの日数がかかるのかを知りたいです。
- ・ 他職種と個で繋がる事が出来るようになる会、お互いの名前を知って頂ける会。
- ・ 他地域では、多職種のネットワークが数年前から、構築されているところもあります。実際にツールを使い、気軽に多職種がチームとして連携している他地域の方に講義をもらうことも、良いかと思います。吾小牧市でもツールの検討があれば、円滑に容易に情報共有や連携が可能となるかと思えます。
- ・ 実際に利用者が2か所の訪問看護を利用しているケースがあれば、その連携の仕方など詳しく教えてほしい。
- ・ 利用者さんからの体調不良の訴えからトリガーする。受診が経過を見るのか、どの科を受診するかトリガーのしかたを知りたい。
- ・ 通常、患者さんを訪問する頻度と料金を教えてください。いつでも連絡して良いと仰っていましたが、真夜中でも対応可能ですか？救急車でしょうか？

問17 その他、在宅あるある会についてのご意見、ご質問があればご記入ください。

- ・ 在宅医療の理解が少ないクリニックへの働きかけが必要かと思えます。ケアマネジャーの役割の理解の促進や訪問看護の必要性の再周知、指示書記載の説明会等の開催などもどうかと思えます。
- ・ 終末期を自宅で過ごしたいと思われる方をなるべく早くご自宅に帰せるようにするには、院内の調整や、戻られてから必要になるであろう医療サービスや介護サービスの調整などが必要ですが、現時点ではそれぞれの立場において見解が違ったりする事もあると思うので、考えのすり合わせみたいな事が出来る機会があれば、今までよりも在宅で過ごせる時間を少しでも長く 出来たりするのかなと思えました。
- ・ 他の訪問看護ステーションの実情を知る事が無かったので、今回講義に参加できて良かったです。毎日、1人で訪問して、観察したこと、本人家族への言葉掛けなど 迷いや不安でいっぱいです。Drに報告の電話も毎回ドキドキします。でも他の人も同じ気持ちなんだなと思ったら安心しました。そして他の事業所ともつながり持たれていって思いました。訪問看護続けたいなとも思えた講義でした。ありがとうございます。
- ・ いつも業務の参考になり大変助かっています。企画・運営は大変かと思いますが今後も宜しくお願い致します。今後でも限り参加させていただきたいと思えます。
- ・ いつも各種テーマで勉強させていただいています。ありがとうございます。
- ・ 内服薬の処方や変更などを相談したい事情がある時に、医師と連携して安心して暮らせる様に支援をしていきたい。
- ・ 急変時、訪看に緊急時訪問していただく「受診して下さい」となることも多く、その手配はCMの仕事ではあるのですが、医療機関にCMが問い合わせることもあり、どこまで訪看さんが手伝って下さるのかよくわからなくなります。

ご意見

小児専門の訪問歯科診療をおこなっています。高齢者の在宅歯科診療はひろがりつつありますが、小児の在宅歯科診療は、必要としているニーズすら把握できていないのが現状です。私達はとまこまい医療介護連携センターとつながりを持ち、苫小牧の医療的ケア児や、重度障がい児の現状を把握し、小児の在宅歯科診療をひろめたいと考えています。

回答

とまこまい医療介護連携センターは、苫小牧市医師会が苫小牧市より「在宅医療・介護連携推進事業」として委託を受け、目的は「医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者等が…」とされています。医療的ケア児や重度障がい児の方等への対応の必要性は理解できますが、現状では業務内容の範囲とすることは申し訳ありませんができません。

Q&A

- Q1 Drからの指示書は2人のDrからもらってもいいか知りたい。
- A1 1つの訪看に対して1人のDrの指示になります。科の違うDrから指示追加がある時は、Dr同士で情報提供して頂き1枚の指示書に記入していただくことになります。（あくまで指示書は医師のみで、歯科医師からは交付できません。）
- Q2 利用者さんの為を考えて指示書の見直しが必要ではないか？
- A2 様式については、制度として示されているので現行のものを使用することとなります。内容については、実際の状態の変化等によって医師と訪問看護とのキャッチボールで適切な指示書としていきたい。
- Q3 訪看STは多くなっていますが、在宅が足りないと思います。現実的に勤医協苫小牧病院となってしまう。病院が変えられない場合、合田内科小児科医院の他にどなたがいらっしゃるのでしょうか。
- A3 残念ながら在宅医療に取り組まれている医療機関が足りないことはご指摘の通りです。他に何処が対応できるか見当たらないこともありますが、連携センターのホームページでのご確認又はご相談ください。
- Q4 多職種への連絡網はございますか？代表者会議等はしていますか？教えてください。
- A4 連絡網はありません。職能の窓口又は個別に連絡しております。職能や事業者の横断的な会議は持たれておりません。取り組み事業毎と関連団体の代表者が集まる会議は、行政を中心にはあります。